琉球大学学術リポジトリ

［資料］REGIONAL VEGETABLE PRODUCTION AND MARKETING RESEARCH CENTER FOR THE FAR EAST 準備委員会議に参加して

メタデータ	言語:
	出版者: 沖縄農業研究会
	公開日: 2009-01-29
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 翁長, 林正, Onaga, R.
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015210

REGIONAL VEGETABLE PRODUCTION AND MARKETING RESEARCH CENTER FOR THE FAR EAST 準備委員会議に参加して

翁　長　林　正

（琉球政府農林局農林部）

Ⅰ　いきさつ

アジアの食糧問題の１つとしてでん粉質食物に偏し栄養の高い蛋白質や新鮮なそ菜類の欠乏が目立ってきた．この事情の改善のためワシントンのＡＩＤが計画して極東のＡＩＤ支部設置国９カ国が集まってそ菜の生産とマーケッティングについて討議が行なわれた．1964年には地域そ菜研究センターの構想がやっとまとまったので案をワシントンに送り援助が要請された．ＡＩＤ農業部門の幹部，農務省の農業研究部門と経済研究部門の幹部，若干の農科大学，それにフィリピンにおける国際稲作研究所（ＩＲＩ）におけると同様な財団も加わって討議がすすめられた．1966年初めにAIDとJCRR（農復会）との間に調査計画について契約が結ばれるに至った．

Ⅱ　調査計画

指導国（米国，日本）を加えてそ菜の生産とマーケッティングの現状調査を次の国々で行なった．フィリッピン，タイ，南ベトナム，ラオス，マレーシア，南韓，沖縄，中国（台湾）．この計画は1966年２月14日から始められ４月21日迄に終った．調査団のメンバーは次のとおり．

Dr. Lindsay D. Brown Dr. Harold G. Love	U. S. A.
西　貞夫　博士	日　本
Mr. C. L. Luh	中　国

調査終了後，センター設立のための国際的準備委員会を５月１日から21日迄台北において会議をもち候補地を視察した．この会議で次のようなことが覚書にされた．

1. 名称は ASIAN VEGETABLE RESEARCH INSTITUTE (AVRI)とする．
2. AVRIは出来る限り早期に完成される．AIDとJCRRが協議して任命した所長，副所長が評議委員会を主催し，研究計画について合議する．
3. 研究予定項目に職員を配置する．
4. 長期計画は別に示す．研究所は10年を目途とし９年目が終了したならば継続か否かを決定する．
5. 評議委員会は次のメンバーで構成する．

設置国（台湾）	２名
贈与機関(AID/US & TAIWAN)	２—６名
参加国	５名
研究所長	１名
計	10名—14名

6. 2年目から諸種の技術課と上級技術者をおき訓練生の技術訓練を行なう．訓練生は22才から50才までの人で個人でも政府の機関の人でも応募できる．期間は６カ月から18カ月で研修項目によってきめられる．
7. 地域活動の研究項目の討議は，所長の承認のもとに上級の技術者と各国派遣技術者との間で行なわれる．試験に必要な備品，消耗品は供給される．
8. AVRI の予算については別に記す．
9. AVRIは台湾省台南県新市郷に設置し面積は116 haを準備する．

Ⅲ　AVRI の研究項目

A　地域の問題として次のような点があげられた．

1. 純良なそ菜種子の供給が不十分である．
2. 病害虫防除技術がまずい．
3. 栽培技術，輪作，土壌管理，かんがい法の適切な指導の不足．
4. そ菜生産業に必要な財政的支援と行政上の指導不足．
5. そ菜収穫後の調整，輸送，マーケッティングの指導の緊急な必要性．
6. そ菜問題を取扱う訓練された研究，普及職員の不足．
7. そ菜生産業に対する各国間の情報交換と協力の不足．

B　計　画

研究対象となるそ菜は，キャベツ，ケッキユウハクサイ，ダイコン，マメ類，トマト，キウリ，ハクサイ，ス

イカで各国の要望は異なる．

次の新しいそ菜類についても施設が許すならばその必要性は認められた．チシャ，セルリー，ブロッコリー，ハナヤサイ，アスパラガス，マッシュルーム，スキートコーン，ピーマン，カンタロープ，ニンニク，タマネギ特に次の点について研究をすすめる必要があるとされた．

A　品種改良と種子生産

1. 不良な気候や病害虫に対して抵抗性のある品種の育成．
2. 参加国の気候にあう品種の育成．
3. 導入し，選抜または交配するものについてはそ菜の品質が食性，輸送の面で改善されるもの．
4. その地方の状況に合う種子生産技術の研究．

B　栽培技術

1. 他のそ菜の間に間作する，重要な経済作物，稲，甘蔗の間に間作する．
2. 植付時期，方法（移植，直播）
3. 栽植距離の研究，肥沃度や色々の組合わせの上でのかんがい法．
4. 雑草防除．

C　災害防除

1. 各国における主要作物病害虫の同定．
2. 農薬の品質と使用方法．
3. 主要病害虫の周期の研究．
4. 生物学的防除．
5. そ菜に対する農薬残効の調査．

D　土壌管理

1. 土地開墾．
2. 酸度きよう正のための石灰の施用時期と量．
3. 土壌有機物の改善と保持．
4. 肥料の施肥法，時期，種類，微量要素．

E　マーケッティング

1. 各国の品質の等級づけ．
2. 包装，調整，貯蔵．
3. 輸送方法と市場組織．
4. 輸出と加工の実際的な研究．
5. 施設設計．
6. 販売の事務処理．

運　営

研究計画は3期に分けて進められ，第1期の3年で建物，施設，圃場整備を行なう．職員の訓練，参加国の視察を行ない研究計画を立てて試験を始める．

次の第2期の3年は，試験の継続と農芸化学の研究が軌道にのり，育成した新品種の種子も参加国に配付され，生産，マーケッティングの改善の上で効果を表わし始める．第3期の4年間は，すべての研究計画は昆虫学，病理学，収穫後の調整，マーケッティングが強調され，特に加工の研究が重要視される．研究所はこの期間に目標達成に近づき，生産，販売，利用の改善に寄与するだろう．この間に将来の多くの重要な実際上の問題を解決するために基礎的な研究に着手しなければならない．

各参加国では所長の承認のもとに必要な試験が施行され，ある場合には参加国間に同一の設計，同一の指導で行なわれることもある．これは簡単に分析が出来て，得られた資料から判断が出来るようにとの配慮である．

AVRIはアジア諸国の研究者間の会合，情報交換も活発に行なう

訓練計画

	1期			2期			3期			
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年
	人									
育種	0	4	4	4	4	4	6	6	6	6
昆虫学	0	2	2	2	2	2	4	4	4	4
病理学	0	2	2	2	2	2	4	4	4	4
園芸	0	4	4	4	4	4	4	4	4	4
土壌・肥料	0	2	2	2	2	2	4	4	4	4
農芸化学	0	0	0	2	2	2	2	2	2	2
収穫調整	0	2	2	2	2	2	4	4	4	4
市場経済	0	2	2	2	2	2	4	4	4	4
機械技術	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2
加工	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2
計（人・年）	0	20	20	22	22	22	36	36	36	36

組　織

AVRIはAID機関の財政的援助と中国政府の協力によって作られるものである．土地は中国政府によって提供され，補助職員の給料も負担する仕組になっている．AIDは研究に必要な人件費，旅費，備品，消耗品，印刷費等を負担する．外国から採用される職員には課税も免除される，PXの利用も考慮されるようだ．なお子弟の教育については台南の米軍施設内の1年から12年までのアメリカン・スクールが解放される．職員は資格が一致すれば参加国からも採用される．

生産技術部

	1期（1—3年）		2期（4—6年）		3期（7—10年）	
	上級	初級	上級	初級	上級	初級
育種技術者	2	4	2	4	2	6
昆虫学者	1	2	1	3	2	4
植物病理学者	1	2	1	3	2	4
園芸技術者	1	2	2	4	2	4
土壌・肥料技術者	1	2	1	2	2	4
農芸化学技術者	0	2	1	3	1	1
計	6	14	8	19	11	23

マーケッティング

	1期		2期		3期	
	上級	初級	上級	初級	上級	初級
収穫後の生理学者	1	1	1	1	2	2
市場経済学者	1	1	1	1	2	2
機械技術者	1	1	1	1	1	1
加工技術者	0	0	0	0	1	1
計	3	3	3	3	6	6

財政

	U.S.$	N.T.$
第1年次	964,670	68,691,400
2	555,220	12,381,400
3	600,220	12,481,400
4	627,420	14,258,200
5	700,420	14,258,200
6	627,420	14,258,200
7	898,260	15,855,400
8	813,260	15,855,400
9	898,260	15,855,400
10	813,260	15,855,400
計	7,498,410	199,750,400

$7,498,410の中には参加国の地域活動に使用する$930,000が含まれている。

米国民政府経済部の配慮と琉球政府の協力でこの会議に参加できたことを感謝します。このような研究機関が立派な活動をして地域開発に役立ち，そ菜の消費が向上し健康な明るいアジアの共存共栄が来ることを祈念したい。